



## 新型コロナ 5類感染症に

新型コロナウイルス感染症の位置づけは、これまで、「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」としていましたが、本日、5月8日（月）から「5類感染症」になりました。厚生労働省は発症後の療養期間を現在の発症翌日から7日間を5日間に短縮しました。また、文部科学省も小中高校などの児童・生徒に原則5日間は出席停止としています。5日間の療養後も熱やせきなどの症状が続いた場合は、症状回復から24時間が経過するまで外出自粛を推奨しています。さらに、**発症から10日間は感染リスクが残るとして、マスクの着用**を引き続き呼びかけています。

今後の変更点をまとめると以下のようになります。

- **毎朝の家庭での体温チェック・提出等は不要**とします。
- **出席停止は「児童の感染が判明した場合」**
  - ・ 発症した後、5日間を経過し、かつ症状が軽快した後一日を経過するまで
  - ・ 感染が不安で休む場合は、校長判断で停止扱いになる場合がある

「わくわく通信7号」でお知らせした通り、今後の感染状況やマスクの着用が効果的であると考えられる場面によっては、マスクを推奨することがあるかもしれません。**マスクの予備を常にランドセルに持たせてください**。ご理解とご協力をお願いします。

## 「グローバルサウス」って何だろう？

最近、報道等で「グローバルサウス」という言葉を見聞きするようになりました。日本語に直すと「広範囲な南」となりますが、どういう意味で使われているのでしょうか？このグローバルサウスの定義はまだはっきりとはしません。アフリカやアジア、中央アメリカや南アメリカなどの南半球を中心とする途上国・新興国を指すときに使われる言葉だからです。日本やアメリカ、フランス、ドイツ、イギリスなどの先進国の多くは、北半球にあります。それに対する言葉として、途上国・新興国を南（サウス）と表現するのです。このサウスには、北半球にあるイランやサウジアラビア、ときには中国も含めてグローバルサウスと表現するときもあります。

今、グローバルサウスが注目されているのは、ロシアによるウクライナ侵攻でアメリカ・ヨーロッパ諸国・日本などと、ロシア・中国との対立が激しくなったことと関係しています。ロシアに経済制裁を加えようとするアメリカなどの先進国に対して、グローバルサウスの国々は中立の立場をとることもあります。それは、グローバルサウスには、ロシアや中国との付き合いが深い国が多いためです。

このように、世界はアメリカ・ヨーロッパ諸国・日本、ロシア・中国、グローバルサウスの3グループに分かれてしまった感があります。日本政府は今年、主要7か国（G7）首脳会議の議長国です。3グループの溝を埋めることができるか、日本の舵取りを注視していきたいと思えます。

